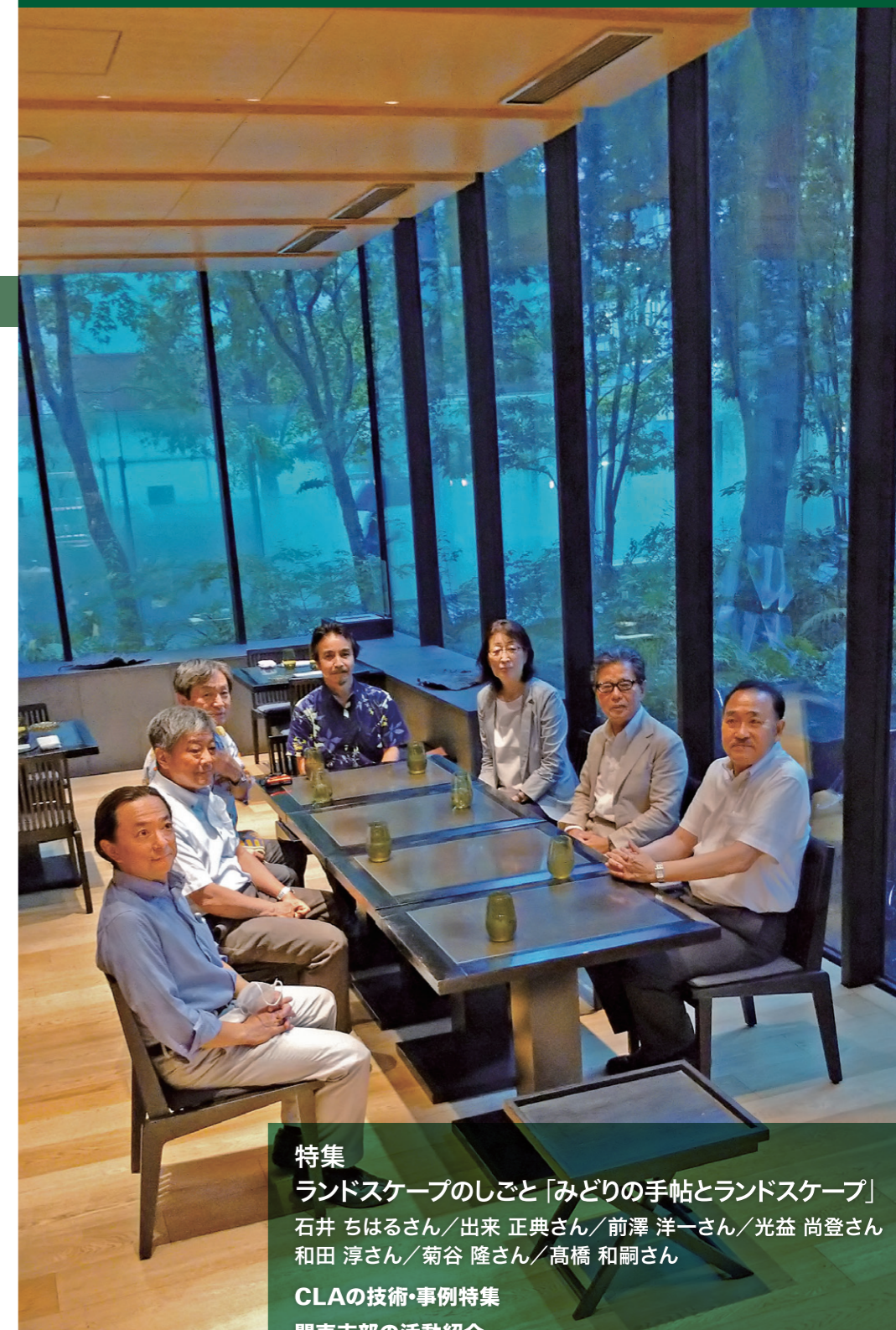




CLA 関東支部情報誌  
Vol.30 記念号 2022.11

# みどりの手帖



特集  
ランドスケープのしごと「みどりの手帖とランドスケープ」  
石井 ちはるさん/出来 正典さん/前澤 洋一さん/光益 尚登さん  
和田 淳さん/菊谷 隆さん/高橋 和嗣さん  
CLAの技術・事例特集  
関東支部の活動紹介

## 「動物園と世界平和」

戦前戦後の上野動物園長を勤めた古賀忠道氏(元陸軍獣医少佐)の言葉を借りると、「Zoo is the peace(動物園は平和そのものである):人の世が平和でなければ動物園は成り立たない。人の世が平和でなければ、人の愛は動物へは及ばない。」つらい現実を繰り返さないためにも、国・地域間の連携による動物たちの迅速な避難先の確保等が、今後私たちに求められる課題となるでしょう。

日本には約160もの動物園があります(国面積あたり施設数世界1位)。平和の尊さ、戦争の恐ろしさや命について、改めて考える機会に動物園を訪れてはいかがでしょうか。

株式会社プレック研究所  
森田 緑



「猛獣処分となった象のジョン」  
出典: 恩賜上野動物園

## いきものコラム その29

2022年2月末に始まったロシアによるウクライナへの軍事侵攻のニュースをみると、かの地の人々の苦しみや悲しみに心が痛みます。しかし実は戦争では人間だけでなく、多くの動物も犠牲になっています。

過去には日本でも猛獣処分の歴史がありました。太平洋戦争が間近に迫った昭和16年に「動物園非常措置要綱」が作成され、空襲で檻が壊れて逃げた猛獣が人に危害を加える恐れがあるとして、上野動物園がそれに従い毒殺や餓死による猛獣処分を実施したことで、全国各地に波及していきました。現在のウクライナでも同様のことが起きており、動物たちは次々と命を落とし悲惨な状況であるという一部報道もあるようです。

## 気になるお店

今回は特集「みどりの手帖30号記念座談会」の舞台となった、都心の緑豊かなカフェをご紹介します。

### ザ・カフェ by アマン



みどりの手帖30号を記念し開催された座談会、歴代編集長が集い語らう場としてふさわしい、この緑に囲まれたカフェは、ビジネス街・大手町に、3年以上かけて丁寧に造られた「大手町の森」の中に佇んでいます。

人々が自然に触れ、癒される場所として機能しているこの「大手町の森」は、これからの都市緑化のモデルとして注目を集めています。

そんな「大手町の森」の中で、癒しの時間を満喫できるのが「ザ・カフェ by アマン」です。

アマンは、バリ島やプーケットなど、アジアをはじめ、世界中にリゾート施設を展開しており、そのアマンが手掛けた初のシティホテルが、大手町の「アマン東京」です。「ザ・カフェ by アマン」は、そのホテル別棟のカフェとなります。

天井が高く、壁一面ガラス張りの店内では、どの席からでも森の緑を眺められ、都市のオアシスで喧騒から逃れ、くつろぎのひと時を過ごすことができます。

「ザ・カフェ by アマン」では、旬の食材を使ったシェフこだわりの料理やデザートが楽しめます。



【フォレ デセール】スイーツとセイボリー、飲み物のセット  
※写真はイメージです。季節により内容は異なります。

住所 ● 東京都千代田区大手町 1-5-6  
大手町タワー 1F  
電話 ● 03-5224-3339  
営業時間 ● 11:00 ~ 19:00  
交通 ● 東京メトロ・都営地下鉄大手町駅直結  
HP ● <https://www.aman.com/ja-jp/hotels/aman-tokyo/dining/cafes-aman>



## 編集後記

2名の新メンバーが加入しました。「色々経験不足な点がありますが、少しでも皆さんに読んでいただける様に作成致します。(中尾)」 「みどりの手帖は学生の頃に目にしておりました。みなさまが身近なランドスケープにふれるきっかけとなるよう取組んで参ります。(森田)」

みどりの手帖 Vol. 30 記念号 2022年11月  
発行者 (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関東支部長 光益 尚登  
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7 近江会館ビル8階  
TEL 03-3662-8266 FAX 03-3662-8268  
企画・編集 CLA 関東支部広報委員会 高橋 和嗣、加藤 愛、泉地 善雄  
中尾 慶命、森田 緑  
※転載・転用を禁じます。



## CLAの技術・事例特集



JPFA 公式  
キャラクター  
「ジェビ太君」

◆ CLAと共に歩んできた、(一社)日本公園施設業協会(JPFA)には広報誌のJPFA NEWSがあります。その概要をご紹介します。

(一社)日本公園施設業協会では、2016年度より公園施設の安全性・耐久性・快適性向上のための活動の一環として、公園施設や公園を取り巻く最新情報を年に2~3回「JPFA NEWS」として発行しております。

過去には、【「高難度系遊具」と「大可動系遊具」について】や【コンクリート製遊具の安全規準の考え方】など安全規準についての最新情報や、【公園施設の定期点検の法令化】にかかわる都市公園法改正についてなど、その時々に合わせて公園情報を掲載しております。また、他にも(一社)日本公園施設業協会独自の、遊具の安全・安心を守る活動もご紹介しております。

最新刊VOL12では、【ベネフィットリスクアセスメント】について紹介しています。今後の公園計画や安全管理に新しく加わる評価方法です。

「JPFA NEWS バックナンバーはこちら」  
<https://www.jpfa.or.jp/jpfa-news/>



## CLA 関東支部 ニュース

CLA 関東支部のR3~4年度「緑の育成に関する技術開発」の一環として開催された特別セミナーを起点に、CLA内に「公園樹木長寿命化技術研究特別委員会」が設置されています。

また、ワーキングチームも立ち上がり、定期的な検討会議に加え「ウォークスルー」を行っています。対象は関東大震災の復興公園として現存が数少ない文京区立元町公園で、老朽化対策と機能更新のための改修が予定されています。公園樹木長寿命化のモデルスタディとして、R4年5月より試行実施しています。(ウォークスルーとは、造園空間の維持管理や改修の計画づくりの為に、立場や職能の違う関係者一同で現地踏査し課題の見える化や共有を図る手法です。)



## リレー紹介! RLAなヒトビト



高橋 彩 Takahashi Aya

登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。高知県高知市出身。東京農業大学卒業後、(株)グラクに入社。2021年CLA賞にて「新宿中央公園 眺望のもり創出」で設計部門優秀賞、「朝霧市シンボルロード 緑の都市軸創生のための樹林保全活用調査」で調査・計画部門優秀賞を受賞。2008~2017年CLA関東支部の広報委員として「みどりの手帖」の編集にも携わる。文京区景観アドバイザー。

ランドスケープの計画・設計を行う際には、対象地は公共・民間、空間も様々ですが、その場所のもつ地形や植生・植栽などの自然環境、歴史や文化的背景、周辺との関係性、人の動きや関わり方などを読み取り、課題を解決しつつ、場の良さや魅力、ポテンシャルを最大限に引き出すことを大切にしています。さらに、新たな価値を創出することを目指して取り組んでいます。

また、人と会って交流することも大切だと考えています。日々の仕事の中では、なかなかほかの事務所の方にお会いしたり、お話できる機会は少ないですが、CLAの広報委員や(一社)ランドスケープアーキテクト連盟(JLAU)の活動に参加することで、第一線で活躍されている方々とお会いする機会が得られたり、同世代の技術者との横方向のつながりを広げることができたりと、とても貴重な場となっています。RLA資格を持つことは、クライアントに専門知識や技術力を有していることを示すことができるだけでなく、ランドスケープに関わる方々との交流や協働の際にも、信頼や安心感を持ってもらうことができると感じています。

# ランドスケープのしごと：みどりの手帖とランドスケープ

特集



**石井 ちはる** Chiharu Ishii  
初代編集長  
CLA理事・技術委員長、総務委員会委員  
株式会社総合設計研究所 CLA1部部长

**前澤 洋一** Yoichi Maezawa  
第3代編集長  
株式会社ブレック研究所 専務取締役

**和田 淳** Atsushi Wada  
第5代編集長  
CLA関東支部監事  
株式会社セット設計事務所  
技術部 部長

**光益 尚登** Hisato Mitsumasu  
第4代編集長  
CLA理事・関東支部長、  
公園樹木長寿命化技術研究特別委員長  
株式会社虹設計事務所 代表取締役会長

**出来 正典** Masanori Deki  
第2代編集長  
シビックデザイン研究所 代表  
(前株シビックデザイン研究所 代表取締役)

**菊谷 隆** Takashi Kikuya  
第6代編集長  
CLA関東支部監事  
株式会社オオバ東京支店まちづくり計画部  
専門部長

**高橋 和嗣** Kazutsugu Takahashi  
第7代編集長  
CLA関東支部幹事・広報委員長  
株式会社URリンクージ都市整備本部  
都市環境室 担当部長

## 「みどりの手帖第30号記念座談会」

～みどりの手帖を振り返り、明日のランドスケープを展望する～

読者の皆様や関係者様のお陰を持ちまして、みどりの手帖は2009年2月の創刊以来本号で30号の発行を迎えました。これを記念して7人の歴代編集長による特別座談会をさる8月18日に開催しましたので、その一部をご紹介します。

### ●進行：現(第7代)編集長 高橋 和嗣

お集まりいただき誠にありがとうございます。みどりの手帖は本号で30号の節目を迎えます。取り上げた内容、特に特集テーマは多岐に渡りました。誤解を恐れず概説すれば、魅力あふれる『個』へのフォーカスを起点に、専門職能の『集』への関係性構築へ向かい、やがて『都市』『復興』『五輪』など大文字の社会的課題・テーマに取り組んでいった系譜とも言えるかもしれません。十数年のこの系譜はランドスケープジャーナリズムとして1つの大きな山脈を形成しているとも言えます。

#### 初代編集長

#### 石井 ちはる

立ち上げの際にCLA会長・支部長から、広く市民や多方面にランドスケープという言葉が浸透するように…との話もありスタートした。特集で取材した異業種の方々との協力関係を築いて、ランドスケープの知名度をお互いに上げて浸透させていくという方法を検討した。実際に創刊号 Vol.1「CSRとランドスケープ」では取材相手の所属するフジテレビや環境教育フォーラム、Vol.2「スポーツとランドスケープ」ではサッカー協会など、企業・団体・協会の方々と双方向でPRができるようにということで、相手方のPRも私たちと一緒にやっていくような協力関係を築けた。手に取りやすいミニコミ誌型の情報誌を目指したことで、「気になるお店」や取材先のインフォメーションコーナーにも置いていただけるようになり効果があった。



今後のテーマや編集は関東のローカルな話題でもグローバルな視点を持って、CLAの各地方支部ともセッションしながらの展開を期待する。

#### 第2代編集長

#### 出来 正典

みどりの手帖の前に『ばていお』という関東支部広報誌があり、長く関わっていました。「Connect with」という考え方を尊重し、業界の仲間を何十人も紹介して、人と人をつないでいった。みどりの手帖でも「ランドスケープのしごと」をテーマに、これから

我々が関わりたい人・組織を紹介していった。一番印象深いのはVol.5「農とランドスケープ」の特集。再開発が盛んに動き出した時期で、単なる屋上緑化や壁面緑化だけではなく、ライフスタイルをリードするような農とランドスケープと都市開発などを関連付けて新しいマーケットの開拓になれば…という思いで取材した。高架脇の緑地活用など何か仕事のヒントにつながるものを発信したいと、皆で議論して次の情報発信のコンテンツを考えた。



今後はランドスケープの再定義や領域拡大を展望しながら、若い人達が夢を持てるように展開して欲しい。

#### 第3代編集長

#### 前澤 洋一



十数年の継続に感慨を覚える。我々の誇りに思っただけで良いとも思う。自分の代では編集委員の交替などあり刊行間隔に苦労したが、時代性のあるテーマを意識した。結果としてVol.11「都市緑化の展望とランドスケープ」Vol.12「都市開発とランドスケープ」Vol.13「都市観光とランドスケープ」など都市に関する特集を追うことができた。またVol.14「2020東京オリンピックとランドスケープ」の特集は東京都のオリンピック関係部局への営業アクセスが難しかった時期にCLAの存在をアピールするという営業的側面も果たせた。一方で都心・都会から視野を広げると、中山間地やリゾート地などの地域・エリア・人には、まだまだ我々の職能に関係するテーマやネタが沢山あると思うので積極的に取り上げていくことを期待したい。



今後も我々の特性である「多面的な親和性」をいかし、様々な人・組織や課題などの接点にアプローチすることが、個々の会員そしてCLAの活性化につながる。

#### 第4代編集長

#### 光益 尚登

CLAおよび関東支部の活動の広報。行政にCLA会員の活用をお願いする時のツール。その2点に重点を置いていた。Vol.15「TOKYO GREEN2020・提起されたランドスケープ」とVol.18「明治神宮外苑の再生と新国立競技場整備計画に対する景観・ランドスケープの提案」は、東京五輪開催に向けてCLAの熱心な活動と取組を紹介した。今振り返ると大変懐かしく思う。Vol.16「都市公園再生とランドスケープ」は、東日本大震災のあとに関東支部で設置した「都市公園再生プロジェクト研究会」の2つのテーマ「身近な公園の再生」と「ランドスケープによる防災と地域再生」の概要を報告した。当時のランドスケープの喫緊の課題の研究報告であったと思う。Vol.17「小笠原諸島とランドスケープ」は、それまでに扱わなかった自然と植物をテーマとし、読み物として楽しい内容に編集した。

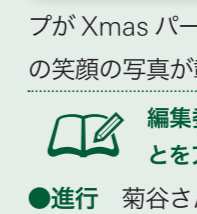


今後もみどりの手帖の価値や魅力を守りつつ、新しい時代の変化をきっちりキャッチアップして欲しい。



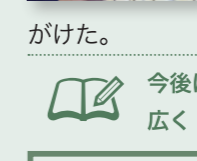
#### 第5代編集長

#### 和田 淳



#### 第6代編集長

#### 菊谷 隆



#### 第7代編集長

#### 高橋 和嗣

当初はコロナで活動休止を余儀なくされ、再開したVol.27では逆手にとって「NEW NORMALとランドスケープ」を特集とした。続いて関東支部を起点に大きな技術開発の取組みが始まったので追いかけてVol.28・29合併号で「公園樹木長寿命化とランドスケープ」の特集に編んだ。みどりの手帖をポータルなものと考えている。読者の興味は次への検索につながるようなみどりの情報の玄関口としたいとQRコードやURLの掲載も心がけている。また学生へのリクルート情報になって欲しいと意識している。いつかどこかの学生さんが卒論に取り上げてくれたら嬉しい。(一同：笑)



ランドスケープの本質の一つは、先駆植物のような前衛性にある。歴代編集長の示唆に富む提言を踏まえつつ、みどりの手帖の未踏地を目指したい。

以後の話題はみどりの手帖とランドスケープの未来論となり、百家争鳴のフリートークキングが続きました。詳しい全体記録はCLA関東支部WEBサイトで公開予定です。またみどりの手帖のバックナンバーも全てご覧いただけます。そちらも併せてご覧下さい。

[https://cla-kanto.jp/?page\\_id=9](https://cla-kanto.jp/?page_id=9)



※座談会は撮影時以外はマスクを着用し十分な感染対策の上で実施しました。